

1. プロジェクト概要

日本での就業を目指す外国人材を対象に、AIアバターを活用したインタラクティブな面接練習および評価を行うWebアプリケーションの開発。JLPTレベルに最適化されたカリキュラムを提供し、内定獲得率の向上と、採用後のミスマッチ防止を目的とする。

2. ターゲットユーザー

- 一般ユーザー：日本で就職・転職を希望する外国人（JLPT N1～N5保持者）。
- 管理者：人材紹介会社、日本語学校、または企業の採用担当者。

3. 主要機能の定義

3.1 外国人ユーザー向けフロントエンド

- JLPTレベル別学習プラン：ユーザーの日本語能力に合わせた質問スクリプトの自動提供。
- AIアバター面接：リップシンク（口の動き）を伴うリアルなアバターによる発問。
- リアルタイムフィードバック：音声解析とLLMを用いた、文法・敬語・内容の多角的な採点。
- 苦手克服ループ：AIが特定した弱点（例：謙譲語の誤用）に焦点を当てた反復練習機能。
- 面接予約システム：練習完了後、企業の採用担当者へのリアル面接希望日の申請。

3.2 管理者向けダッシュボード

- スクリプト・教材管理：業界・職種・JLPTレベルごとの面接台本の登録およびTTS（音声合成）設定。
- ユーザー分析レポート：個々のユーザーの成長曲線、苦手項目の統計可視化。
- 日程調整管理：ユーザーからの面接申請の確認、ステータス更新。

4. JLPTレベル別評価ロジック設計

レベル	評価の重点項目	AIによる主なチェック項目
N1/N2	ビジネス即戦力	尊敬・謙譲語の使い分け、論理的思考、逆質問の妥当性
N3	実務・接客対応	丁寧語（です・ます）の維持、質問の意図解釈、定型表現
N4/N5	基本意思疎通	基本挨拶、語順の正しさ、聞き取りの可否

5. システム・テクノロジー構成

5.1 技術スタック

- Frontend: React / Next.js (多言語対応)
- Backend: Python (FastAPI) ※AI処理との親和性を重視
- Database: PostgreSQL, Firebase (音声/動画ストレージ)
- インフラ: AWS または Google Cloud Platform

5.2 活用API

- LLM: OpenAI GPT-4o (評価、フィードバック生成)
- STT/TTS: Google Cloud Speech-to-Text / Text-to-Speech
- Avatar: HeyGen API または D-ID API (動的アバター生成)

6. 苦手分析とパーソナライズの仕組み

- 解析: 音声データをテキスト化し、LLMが「語彙・文法・内容・マナー」の4指標でスコアリング。
- 蓄積: 特定された弱点を「苦手タグ(Weak Points)」としてデータベースに記録。
- 最適化: 次回セッション開始時、苦手タグに関連する質問やアドバイスをAIが優先的に選定。

7. 開発フェーズ(ロードマップ)

- Phase 1 (MVP): 音声認識とテキストベースの評価機能の実装。(Talkで基本的な部分は実装済み。要チューニング)
- Phase 2: AIアバターの統合と、JLPTレベル別カリキュラムの構築。
- Phase 3: 苦手分析ダッシュボードおよび日程予約機能の実装。